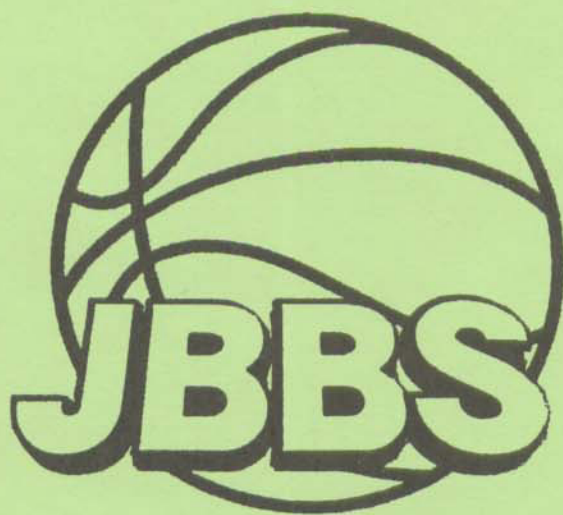


バスケットボールプラザ

Basketball Plaza

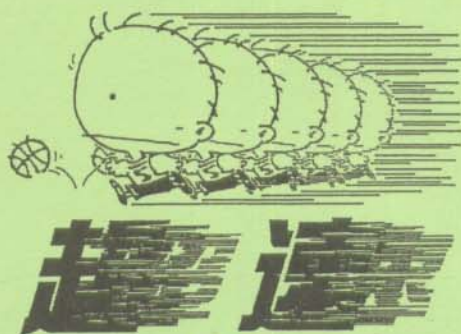
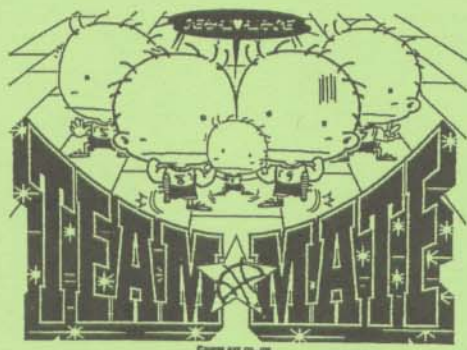
No:37



ホームページ用
抜粋版

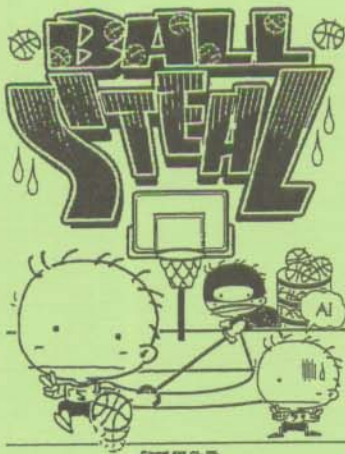
2008年5月

NPO法人 日本バスケットボール振興会



DUPER®

表現の自由人。



DUPER®

デューパーファイブ株式会社
〒130-0023 東京都墨田区立川3-3-5
TEL . (03)3632-7045 (代表)
FAX . (03)3632-8327

URL : <http://www.duper.co.jp>

E-mail: info@duper.co.jp



手にとった瞬間、キミは驚くはず。
その翼のような軽さとしなやかさに。
1gでも軽くするために、あらゆる素材を
厳選し構造を何度も検証し
そして遂に、軽量でありながら
優れたクッション性と包み込む
ようなフィット感を実現させた。

夢は必ず叶うと信じるための1足。
ウエーブホープネオ
希望という名の翼、新登場。

WAVE HOPE NEO



キミに翼を。

—— 主要国内大会 39 回の優勝 ——

忍者ディフェンスを考案した指導者 尾崎正敏氏

担当：歴史部会

監督として日本バスケットボール界に名を馳せた人物は数多い。現在 30 歳あるいは 40 歳代くらいまでの人は、おそらくシャンソン化粧品時代に日本リーグ 10 連覇を達成した中川文一氏（現富士通ヘッドコーチ）、いすゞ自動車で黄金時代を築いた小浜元孝氏といった名前を真っ先に挙げるだろう。



しかし、過去にさかのぼれば、彼らを遙かにしのぐ経歴の持ち主がいるのである。

主要な国内大会で実に計 39 回の優勝。前述の二人も遠く及ばない驚異的な記録を挙げている人物がいる。後にその実績と世界的な名声を買われて、日本協会会長をも務めるなど、もはや“名監督”という枠には収まらない活躍ぶりといえる。

女子実業団チームの指導者としてのみならず、日本バスケットボール界の一時代を築いた尾崎正敏氏の足跡と卓越した理論を、本人の証言を交えながら迎ってみた。

氏がバスケットを始めたのは旧制中学 3 年の時。当時は野球でも何でも、いろいろな大会に引っぱり出されていたが、中でもバスケットは面白そうだったという。そのときの同期は 6 人全員が健在で「つい最近も会ったばかりで『よく生きていたなあ』なんて言っていたんですよ」と笑う。

その後 1949 年のインターハイに出場し、西日本高校選手権では優勝。早稲田大学に進んでも 1953 年のインカレで 3 位に入るなど、選手としてのキャリアを順調に重ねた。

指導者・監督としてのスタートは早かった。1956 年に大日本紡績平野（その後ニチポー平野→ユニチカ山崎→ユニチカと名称を変更）の第三代監督に就任。25 歳、まだ独身である。会社がチームを作ったのが 1950 年。オールジャパンのタイトルを取るほどではなかったものの、全国から選手が集まり始めて強くなっていった頃だった。

「基礎体力をつける練習を徹底的にやりましたよ。ちょうどバレーボールの大松さんがニチポー貝塚で『俺についてこい』ってやっていた時期でね」。

その成果はすぐに現れ、1958 年正月のオールジャパンでチームは優勝。以後、1980 年までの 23 年間で優勝 15 回、準優勝 8 回。3 位以下は一度もない。さらに、全日本実業団選手権大会でも 1959 年から 1966 年まで 8 連覇。日本リーグに移行した 1967 年以降も 7 連覇。通算で 15 連覇である。1964 年 4 月から 1972 年 12 月までの 8 年半以上にわたって国内 171 連勝という途方もない記録をうち立ててもいる。

当時はどのチームもユニチカに土をつけることを目標にしていたという。

それだけの実績の持ち主とあっては、当然ナショナルチームの監督にも声がかかる。1965 年から 1979 年までの長きにわたり女子ナショナルチームを指揮した。そこで有名になったの

が、いわゆる“忍者ディフェンス”だ。

当時から日本と欧米諸国の間には“身長”という壁が立ち上がり、日本は世界の舞台では苦しめられていた。ソビエト連邦（現ロシア）には、実際に210 cm以上あったと言われるウリヤーナ・セメノワという選手もあり、あまりのサイズの違いに氏も思わず「あんなのとやるのか」と半ばあきれてしまうほど。

食事の際には、他国の選手がバナナを一人でひと房丸ごと部屋に持って帰るのを見て、大笑いしたというエピソードもある。

178 cmが最長身だった日本は、当然まともにぶつかっては勝てないと氏は考えた。

「相手をこっちの土俵に引っ張り込まんとかかん。韓国には韓国の、中国には中国の戦い方があるが日本にはない。それを作らなければと思ったんです。」

そうしてあみ出されたのが、忍者ディフェンスというわけである。氏は、周囲からはアイディアンとして知られており、氏自身「何か持って生まれたものでもあるのか、すぐピカッと出てくる」と語る。3ポイントルールができる以前から、ユニチカの選手には8メートルの距離からのシュート練習をさせていたくらいだ。ちなみに現在の国際ルールによる3ポイントラインは6メートル25 cmである。

そんな氏の采配により、女子ナショナルチームは1967年チェコスロバキアで開催された世界選手権と、1971年ブラジルで開催された世界選手権大会とともに5位の成績、そして1975年にコロンビアで開催された世界選手権大会では銀メダルという快挙を成し遂げた。言うまでもなく、日本女子チームの歴代最高成績である。氏自身もこのコロンビアでの大会が今までで一番強く印象に残っていると言うが、この銀メダルで初のオリンピック女子種目となったモンテリオール五輪にも出場し5位入賞を果たしている。

「脇田代（喜美、元ユニチカ山崎）とか佐竹（美佐子、元第一勧業銀行）なんかは、世界的に比べると大きくないのによくやってくれましたよ。特に佐竹は闘争心があった。一番大事なことですよ。」

自他ともに認める、そんなきめ細かな理論は後に具体的な形で再び世に出ることになる。現在、日本協会の主要プロジェクトになっている“エンデバー”という選手育成制度である。

これは、氏が日本協会会長に就任した際に日の目を見た構想だ。

「これをやれば世界と戦えるようになるだろう、こういう形にしないとあかんと、会長になる時に自分なりに考えて用意したんです。自分がいつどうなるかもわからないし、こういう発想を残しておかんと、と思ったのです」。

その氏が思うには、今の日本に一番足りないのは、女子の場合ジャンプ力という概念であると言う。45 cmのサージェント・ジャンプ力がある180 cmの選手と、170 cmしかなくても60 cmのサージェント・ジャンプ力を持つ選手とでは、後者が5 cm優位に立つという考え方だ。その他、ジャンプ力をつけることによって滞空力が増し、シュートリリースにも良い影響が現れるシパスの出し方も違って来るなど、氏の発想は理論的な裏づけのもとに成り立っている。日本の課題として身体的な高さを挙げる人は多いが、ジャンプ力という部分に思いをめぐらせる人はあまりいない。そのあたりに、氏が指導者として卓越しており、成功した理由があるのだろう。氏も「こういうことを言うとアホかと言う人もいるかもしれないけど、意外とそういう見



左から島本氏、尾崎氏、従野氏

方が抜けているんですよね」と言うとおり、誰も目を向けないようなところに得てしてヒントは隠れているものだ。

現在は名誉職的な立場でありながら、変わらずバスケット界の行く末に思いを馳せている。

「今、協会はどうなっているのか・・・鬼塚（喜八郎・前協会会長・故人）さんが亡くなられてから、どうしてか会長は不在のままで、理事の改選もしていないという。僕が何やかや言うとおれこれ言われるから何も言わないけど、心配ですよ」。

まだまだ氏の力は、日本のバスケットボール界には必要とされていそうだ。

[取材・従野明宏、島本和彦]

尾崎正敏氏

昭和6年(1931)岡山県出身。操山高校から早稲田大学卒業。

昭和31年(1956)大日本紡績平野の監督に就任、昭和62年(1987)から総監督、平成4年から部長としてチームに携わる。その間、昭和40年(1965)から昭和54年(1979)まで全日本女子ナショナルチームを率い、世界選手権に4回、オリンピックに1回出場。最高成績は昭和50年(1975)コロンビア(カリ)で開催された世界選手権における第2位。また、日本協会の強化委員長や専務理事などを歴任し、途中平成5年(1993)に脳内出血に見舞われながらも見事復帰、平成11年(1999)から平成15年(2003)まで会長として日本バスケットの発展に尽力した。現在は、近畿協会名誉顧問と大阪協会名誉会長等を務める。

監督としての主な戦歴

○国内

全日本総合選手権大会・・・通算15回優勝(8連覇含む)

昭和33年(1958)以降連続23年間決勝進出

全日本実業団選手権大会・・・昭和34年(1959)以降8連覇

日本リーグ・・・昭和42年(1967)以降8回優勝(7連覇含む)

国民体育大会・・・昭和46年(1971)までに7回優勝

昭和39年(1964)から47年(1972)まで公式戦において無傷の171連勝

○国際大会

昭和40年(1965)第1回女子アジア選手権大会(韓国) 2位

昭和42年(1967)第5回女子世界選手権大会(チェコ) 5位

昭和45年(1970)第3回女子アジア選手権大会(マレーシア) 優勝

昭和46年(1971)第6回女子世界選手権大会(ブラジル) 5位

昭和49年(1974)第5回女子アジア選手権大会(韓国) 2位

昭和49年(1974)第7回アジア競技大会(イラン) 優勝

昭和50年(1975)第7回女子世界選手権大会(コロンビア) 2位

昭和51年(1976)モントリオールオリンピック 5位

昭和54年(1979)第8回女子世界選手権大会(韓国) 6位

以上

日本女子代表強化開始

北京オリンピック世界最終予選へ向けて

[編集部]

日本女子代表チームと候補選手が、6月にスペインで開催される北京オリンピック世界最終予選へ向けて4月1日から強化を開始した。

強化合宿は1回約10日間で、7次に及ぶ強化合宿が予定され、ヨーロッパにも強化遠征に力かける。チームのスタッフと候補選手は後述のとおりだが、強化に専念して世界最終予選を勝ち上がり、暗い話題ばかりだったバスケットボール界に是非とも光明をもたらして欲しい。

強化合宿を始めるにあたり、**島立登志和**女子強化部長は次のようにコメントしている。「今日から6月の北京オリンピック最終予選に向けて強化スケジュールをこなし、万全の体制にもっていきたいと考えている。日本協会が様々な問題を抱えているが、スタッフ・選手共に今日の日を迎えられたことに喜びを感じている。日本代表チームは小・中・高・大学の頂点に立つメンバーであるべきとし、一貫した指導体制の頂点に立っていくべきなのが日本代表チームである。なんとしてでも北京オリンピック最終予選を勝ち上がり、出場権を獲得したい。」

内海知秀ヘッドコーチ談



北京オリンピック世界最終予選に向けてベテラン選手も召集し、しっかり強化に取り組んでいきたいと考えている。6月の予選まで休みなしで合宿を行う。4月の下旬から5月の中旬までヨーロッパに行き、5月中旬に壮行イベントを開催予定。5月下旬からスペインに入り最終予選に臨みたいと考えている。

選手はリーグ終了後もしっかりと体をつくり、非常にモチベーションが高い状態で集まってくれているので今日からの合宿が楽しみである。

今回はベテランを候補選手に選出したが、濱口選手は走れるセンターとしてチームを活性化してくれると期待している。また、今までの代表選手としてのキャリアは大きな武器である。相澤選手は、昨年まで大神選手に大きな負担をかけてしまっていた部分を軽減できる存在として期待している。矢野選手は、外角のシュートをはじめとした得点力とアテネオリンピックを経験しているというキャリアを重視し、選出した。北京オリンピック世界最終予選に出場する

12名は5月中旬をめどに選出を考えている。

北京オリンピック世界最終予選（予選グループA）では、セネガルをターゲットに絞る。ヨーロッパ勢は非常に強い、レベルの高いチームが集まっており、簡単に勝つことは出来ないだろうが、日本のバスケットの良い点を出すことが出来れば勝機はあると考えている。日本の武器である外角シュートと足を使ったバスケットを展開して対抗していきたい。

WJBLが全日本の合宿を訪問して激励

強化合宿中の4月25日、WJBLの石川専務理事をはじめとして各チームのヘッドコーチが、東京ナショナルトレーニングセンターを訪れ選手たちを激励した。

現場任せにせず何としてもオリンピック出場を果たして欲しいという熱意の表れで、これまでになかった取り組みはおおいに評価できる。日本代表チームの選手やスタッフの努力は勿論だが、それらを陰で支える体制作りも大切なことであり、選手たちの励みになることは間違いない。



激励に訪れたWJBLのヘッドコーチ陣

4月下旬にヨーロッパへ出発した代表チームは、強豪リトアニア代表チームと3回対戦して1勝2

敗の成績を上げて帰国。負けた2戦も下記のように内容的には接戦を演じており、FIBAランキング12位のチームと対等に戦った力はおおいに期待できそうだ。

5月5日	リトアニア	77—72	日本代表
5月6日	日本代表	71—68	リトアニア
5月7日	リトアニア	60—56	日本代表

また、5月18日に代々木第二体育館で開催されたリトアニア招待国際試合では、日本代表が粘り粘って最終ピリオドで逆転し意地を見せてくれた。

5月18日	日本代表	66—63	リトアニア
-------	------	-------	-------

試合後、世界最終予選に臨む12名の選手が発表されたが、ベテラン選手を含めたメンバーであり、6月に開催される北京オリンピック世界最終予選が楽しみだ。

全日本女子代表チーム

スタッフ

	氏名	所属
スーパーバイザー	島立 登志和	日本協会女子強化部長
ヘッドコーチ	内海 知秀	日本協会
アシスタントコーチ	萩原 美樹子	日本協会
ドクター	蟹沢 泉	船橋整形外科病院
トレーナー	津田 清美	日本協会
トレーナー	大熊 利恵	日本協会
総括	高橋 雅弘	JOMO
マネージャー	成井 千夏	JOMO

選 手

No	氏 名	P	身長	体重	年齢	所 属
1	相澤 優子	PG	166	62	34	シャンソン化粧品
2	大神 雄子	PG	170	63	25	J OMO
3	吉田 亜沙美	PG	165	64	20	J OMO
4	船引 まゆみ	SG	174	69	29	富士通
5	田中 利佳	SG	173	58	25	J OMO
6	石川 幸子	SF	178	68	29	シャンソン化粧品
7	矢野 良子	SF	178	73	29	富士通
8	内海 亮子	SF	175	69	22	J OMO
9	三谷 藍	PF	182	68	29	富士通
10	矢代 直美	C	182	72	30	日本航空
11	濱口 典子	C	183	80	34	アイシンAW
12	山田 久美子	C	192	118	29	J OMO
—	平 均		176.5	72	28	—

(年齢・所属は2008. 3. 26 現在)

P-ポジション

PG : ポイントガード SG : シューティングガード

SF : スモールフォワード PF : パワーフォワード

C : センター



以上のうち濱口選手は、アトランタオリンピックとアテネオリンピックに出場したベテランで、大神選手、矢野選手、矢代選手の3名がアテネオリンピックを経験している。また、初めて代表候補選手に選出された船引選手もおそらく従来にも増して多彩な顔ぶれとなっている。大いなる活躍を期待したい。

北京オリンピック世界最終予選

北京オリンピック世界最終予選は6月9日（月）から6月15日（日）まで、スペインのマドリード市において開催される。

出場する12チームは下記の通りで、このうち上位5チーム到北京オリンピックへの出場権が与えられる。

出場チーム

アフリカ大陸	セネガル（アフリカ予選2位 F I B Aランキング17位）
	アンゴラ（アフリカ予選3位 F I B Aランキング42位）
アメリカ大陸	キューバ（アメリカ予選2位 F I B Aランキング8位）
	ブラジル（アメリカ予選3位 F I B Aランキング4位）
	アルゼンチン（アメリカ予選4位 F I B Aランキング12位）
アジア大陸	日本（アジア予選3位 F I B Aランキング15位）
	チャイニーズタイペイ（アジア予選4位 F I B Aランキング22位）
ヨーロッパ大陸	スペイン（ヨーロッパ予選2位 F I B Aランキング5位）
	ベラルーシ（ヨーロッパ予選3位 F I B Aランキング30位）
	ラトビア（ヨーロッパ予選4位 F I B Aランキング26位）
	チェコ（ヨーロッパ予選5位 F I B Aランキング9位）
オセアニア地区	フィジー（オセアニア予選3位 F I B Aランキング58位）

グループ分け

グループA：日本、ラトビア、セネガル

グループB：アンゴラ、アルゼンチン、チェコ

グループC：ブラジル、フィジー、スペイン

グループD：ベラルーシ、チャイニーズタイペイ、キューバ

競技方法

予選ラウンド：出場12チームを3チームずつの4グループに分け、1回戦総当たりを行い、各グループの上位2チームが準々決勝に進出

準々決勝：予選ラウンド各グループの上位2チームの合計8チームで準々決勝を行い、それぞれの勝者4チームがオリンピック出場権を獲得敗者は残りの1チームを決定するため準決勝を行う

準々決勝対戦カード		
グループA 1位	VS	グループB 2位
グループB 1位	VS	グループA 2位
グループC 1位	VS	グループD 2位

グループD 1位 VS グループC 2位

準決勝 : 準々決勝敗者 4 チームでトーナメント方式の準決勝を行い、勝者が決勝に進出

決勝 : 準決勝の勝者が決勝を行い、勝者がオリンピック出場権を獲得

北京オリンピック

8月8日から8月24日まで開催される、北京オリンピックへの女子出場国は次のとおり決まっている。出場資格は、開催国、前世界選手権優勝国と各大陸代表1チームの合計7チームと、今回の世界最終予選上位5チームを合わせた12チームで、相当高いレベルのゲーム展開となりそうだ。

[出場国]

- 中国 : 開催国 (F I B A ランキング 10 位)
- オーストラリア : 2006 年世界選手権優勝国 (F I B A ランキング 2 位)
- マリ : アフリカ選手権優勝国 (F I B A ランキング 31 位)
- アメリカ : アメリカ選手権優勝国 (F I B A ランキング 1 位)
- 韓国 : アジア選手権優勝国 (F I B A ランキング 7 位)
- ロシア : ユーロバスケット優勝国 (F I B A ランキング 3 位)
- ニュージーランド : オセアニア選手権優勝国 (F I B A ランキング 16 位)
- 世界最終予選上位 5 チーム

なお、チームとは別に国際審判員の平原勇次氏が F I B A からノミネートされて、オリンピックの笛を吹くことになった。平原氏は早稲田大学卒業で 35 歳、2007 年アジア男子選手権大会の準決勝戦を吹いており、大いなる活躍を期待したい。

F I B A ダイヤモンドボール

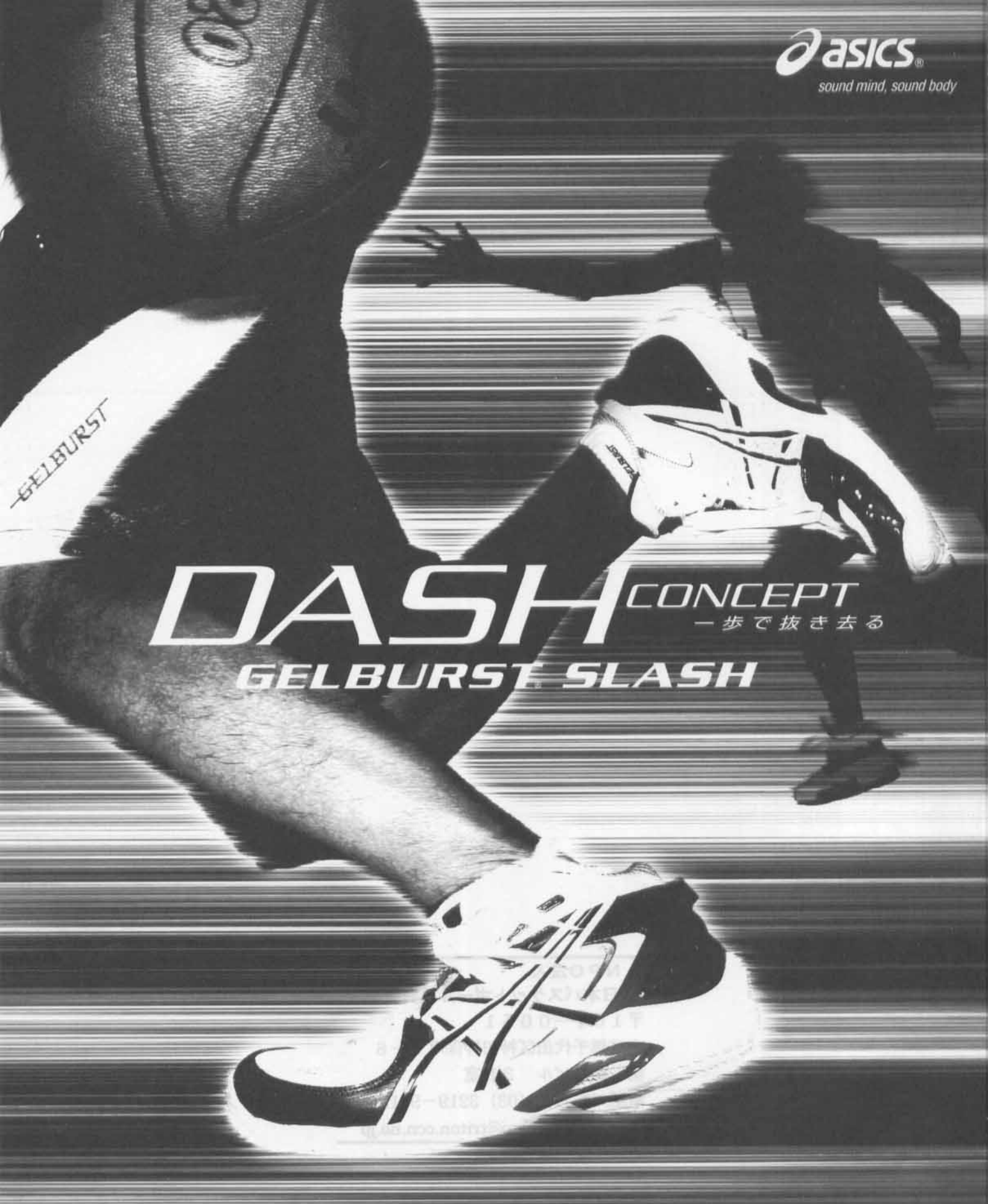
また、8月8日から始まる北京オリンピックとは別に、8月2日(土)から5日(火)まで、中国の海寧市において F I B A ダイヤモンドボールという F I B A 主催の国際招待試合が開催され、日本が出場することになった。この招待試合は4年に1度開催され、F I B A から出場依頼のあったチームが出場する。

今回出場国は次の通り

アメリカ、オーストラリア、ロシア、中国、日本、マリ

以上

グループD 1位		グループC 2位	
USA	VS	AUS	
USA	VS	CHN	
USA	VS	JPN	



DASH CONCEPT
一歩で抜き去る
GELBURST SLASH

NEW 4月下旬発売 **GELBURST SLASH**

TBF652 ¥16,800 (本体¥16,000)

■カラー：0151 ホワイト×ミッドナイトネイビー・0193 ホワイト×サンライトシルバー
■サイズ：23.5～30.0・31.0・32.0cm

株式会社 **アシックス**

新しいバーストの秘密は.....

アシックスで聞え

検索

携帯サイトOPEN!!



アシックスはバスケットボール日本代表チームのオフィシャルサプライヤーです。



アシックスシューズのストライプデザインはアシックスの商標であり、世界の多くの国で登録された商標です。
表示価格は消費税込みのメーカー希望小売価格です。()内は消費税抜きの価格です。商品についてのお問い合わせは「(株)アシックスお客様相談室」までどうぞ。
03-3624-1814、06-6496-5151 ※限定商品についてはお取扱いのない販売店、及び商品の数量に限りがありますのであらかじめご了承ください。

REUSE を考える

[環境の総合情報商社]

“地球にやさしく” どこかで見たような聞いたような言葉。

あなたはリサイクルに関心を持っていますか？

“地球環境をこれ以上汚したくない”これが私たちの願いで

あるとともに、人類に課せられた大きな課題です。

当社は携帯電話やパソコンなど、鉄を除いた金属（レアメタル）の回収、再生（リサイクル）を主な業務にしている会社です。

日本のバスケットボールの振興、発展を応援します。

リユース・ビズテック 株式会社

〒333-0842

埼玉県川口市前川2-33-1

TEL 048-263-7023

FAX 048-269-8009

代表取締役 永野 鉄洋

molten[®]
For the real game



For the real game

「プレイヤーの技術や意志が100%発揮される時、スポーツは本物になる」

私たちモルテン・ブランドは、この信念をもとに

世界に類のないボールと

スポーツエキップメント・メーカーとして

つねに完璧な製品づくりを目指しています。

本大会唯一の公式試合球

BGL7
GL7 国際公認球 | 補定球
貼り・天然皮革、7号球



www.molten.co.jp

株式会社 **モルテン** 東京本社 〒130-0003 東京都墨田区横川5丁目5-7